

令和7年度 第1回 琴浦町環境審議会 議事録

日時：令和7年5月16日（金） 午後1時30分～2時30分

場所：琴浦町役場本庁舎 防災会議室

出席者：環境審議会委員（出席：11名、欠席：4名）

オブザーバー（2名）、事務局（町民生活課：小椋、鈴木、辻中）

1. 開会

定刻となり、事務局（小椋）より開会が宣言された。事務局より、今年度の環境審議会事務局担当として挨拶があり、審議事項の説明と協力のお願いがあった。

2. あいさつ

会長より、令和7年度第1回環境審議会開催の挨拶があった。委員及びオブザーバーへの感謝が述べられ、本日の議題（報告事項、協議事項、公害防止計画）の概要と、公害防止計画に関する現地確認の可能性について言及があった。議事進行は会長が議長を務める旨が確認された。

3. 議題

(1) 報告事項

ア 脱炭素先行地域計画（環境省）の認定【資料1】

事務局より、資料1に基づき、環境省の脱炭素先行地域認定について報告。

- 倉吉市、北栄町、琴浦町の3市町による共同提案「グリーンエネルギーが紡ぐ共生のコミュニティ」が、第6回脱炭素先行地域として認定されたこと。
- 15件の提案のうち7件が認定されたこと。
- 5年間の事業であり、環境に優しい取り組みと地域課題の解決を目的とすること。
- コミュニティソーラー事業を例に計画の概要を説明。

(2) 協議事項

ア 一般廃棄物処理量の推移【資料2】

事務局より、資料2に基づき、琴浦町における一般廃棄物処理量の推移について説明。

- 可燃ごみは総量、一人当たりともに減少傾向にあること。2025年には更なる減少が見込まれること。

- 10月1日からプラスチックの一括回収を開始することで、可燃ごみの更なる減少が期待されること。
- 軟質プラスチックの回収量は増加傾向にあり、住民の意識の高まりが伺えること。
- 一人当たりの軟質プラスチック回収量も増加していること。
- 発泡トレイは微増傾向、布類は減少傾向にあること。減少要因は分析が必要であるが、リサイクル促進の観点からは増加が望ましいこと。
- ごみの傾向について継続的に分析していくこと。

質疑応答：

- **質問：** 軟質プラスチックを含むプラスチック一括回収における袋の有料化について、住民のが取り組むメリットは。（これまで、お店で無料で出せていたため、取り組まない可能性）
 - **回答：** これまでの軟質プラスチックだけでなく、すべてのプラスチックが対象となり、可燃ごみ袋よりも安価な専用袋（大小2種類）を準備することで、分別による家庭の負担軽減によるインセンティブを設けている。
- **質問：** プラスチックの回収頻度と回収日は。
 - **回答：** 週1回。可燃ごみ1回目の回収日の翌日。
- **質問：** 新しい分別方法の周知方法について。
 - **回答：** 東伯、赤碕地区で説明会を開催予定。希望する部落へは個別に説明を行う。
- **質問：** 「ごみの出し方」（分別方法に関する資料）の完成時期と、部落への説明会開始時期は。
 - **回答：** 資料は9月上旬に完成予定。部落への説明会は8月頃から開始予定。
- **質問：** 指定袋の見本は提示するか。琴浦環境アクションチームで子供達への説明をするので提供が可能か。
 - **回答：** サンプルの袋を作成するため、提供する。

イ 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画（案）【資料3】

事務局より、資料3（概要版）に基づき、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画（案）について説明があった。

- 計画の目的は、2050年のカーボンニュートラル達成に向け、琴浦町においてもCO₂排出量実質ゼロを目指すこと。
- 事務事業編（行政主体）とは異なり、区域施策編は住民の取り組みを促すためのものであること。
- 計画期間は2030年までの6年間であること。

- 2021年度のCO₂排出量は115トンであり、人口減少等により徐々に減少傾向にあること。
- 2030年までに2013年度比61%の削減目標を設定していること（国の目標46%よりも高い目標）。
- 対策ケースとして、人口減少、技術進歩による削減を見込んでいること。
- 省エネ対策（住宅の断熱化等）、再生可能エネルギー導入（太陽光、水力）、森林保全、ごみ排出量削減、啓発普及、GX推進、新技術活用など、具体的な取り組みを示すグラフ。
- 公共施設における省エネ改修、住宅の断熱化支援、再生可能エネルギー導入支援、森林保全活動、ごみ分別・減量化の推進、住民への啓発活動などを具体的な取り組みとして挙げていること。
- 環境審議会に対し、計画の進捗状況の報告の場を設け、改善に向けた取り組みや評価について意見を求めること。
- 自治体の排出量は約2年遅れで公表される（「自治体排出量カルテ」（環境省））
- 役場の紙のコピー用紙使用量の削減状況は、タブレット導入や電子決裁の推進により減少傾向にある。

質疑応答：

- 質問：2030年の削減目標が国の目標よりも高い点について。
 - ▶ 回答：琴浦町として、より高い目標を設定している。
- 質問：琴浦町としてカーボンクレジットを創出（売却）した場合、琴浦町のCO₂排出量の算定方法について。
 - ▶ 回答：議事録と合わせて報告する。
- 質問：「ことうらゼロカーボン推進委員会」の設置案について。
 - ▶ 回答：環境審議会でも直接議論することで足りる。計画文書を修正する。

ウ 公害防止計画（1件）

当該計画には事業者の生産工程や技術上のノウハウ等の機密情報が含まれており、公表することにより、当該法人の競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるため非公表とします。

エ その他

特になし。

4. その他

ア 委員の委嘱について

事務局より、委員の任期が本年 5 月で終了すること、新しい委員の推薦を各団体に依頼する文書を発出することが報告された。

5. 閉会